

「子どもの質問 インコのものまね」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

私の授業は、子どもたちからの質問で始まる。今やっている単元に関係のある質問が多いが、そうでないものも多い。今日の3年生のあるクラスの質問と、それに対する私の短時間の答えである。

C ; 「木星のお月さまの一つ・・・えーっと、何だっけ? エーパットだっけ? そこから水が噴き出たってホントですか?」(この質問はとても多い)

T ; 「本当です。エーパットではなくて、エウロパですね。エウロパにはもともと氷がたくさんありました。木星はとても大きくて引力が強いので、その周りを回っているエウロパは、膨らんだり縮んだりして、いつも形が変化しています。形が変化すると熱が出ます。冷たい粘土をこねると、温まって柔らかくなるのと同じです。それで中の氷が融けているようなのです。生き物がいるかも知れないと考える宇宙生物学者もいます。木星は太陽からとても遠いので、表面の水は凍ったままです。その氷にヒビが入って、その下の水が噴き出したのです。アメリカの NASA は、探査機でその水を地球に持ち帰る計画を立てているそうです。」

C ; 「三日月は夜、って言うか、夕方に見えるんだけど・・・それですぐに沈んじゃうでしょ? で。で。えっと、三日月って、いつのぼってくるんですか?」

T ; 「そうですね、三日月は太陽を追いかけるように沈んでしまいますね。実は、三日月もちゃんと昇ってきます。朝 9 時頃の東の空です。残念ながら、三日月は細くて暗いので、太陽が明るすぎて、どこにあるか見えないのです。明るい電灯のそばで、ホテルが見えにくいと同じです。見えないけれど、太陽の左下に三日月があるのですよ。」

C ; 「田中先生は、いつノーベル賞をもらうんですか?」

T ; 「23 世紀までには、一回ぐらいもらいたいです。」

C ; 「テプラの字って、どうやってテープに印刷されるんですか? 機械の中に、“字のもと” とか入ってる

んですか?」

T ; 「カートリッジの中の黒いテープを、熱でとかして字を書いています。(図示して説明)」

C ; 「うちのインコはオスで、しゃべります。少しだけど・・・。夜でも“オハヨー”とか言います。しゃべるインコはオスだけだって、パパ・・・じゃない、お父さんが言ってたけど、何ですか?」



T ; 「確かにインコはオスしかしゃべりません。実は野生で生活しているインコの仲間のオスは、メスの鳴き声を真似して、上手に真似できるオスが、メスと結婚できます。もともと「ものまね」が上手な鳥なのです。ヒトがオスだけを飼うと、飼い主をメスだと思って、声を真似することがあります。ヒトの声だけでなく、電話や時計の音、テレビの音楽などもそっくり真似します。特にセキセイインコは、草の実を食べるので、実の殻をむくために、舌が長いのです。それでヒトと同じような声が出せるのです。」

子どもの質問は、実に面白い。「子ども電話相談室」の回答者は複数いたが、私は一人である。常に子どもたちの疑問や興味にアンテナを張り、勉強しておかないと即答できない。さあ、今日も本を読もう!